

科目	物理療法学	担当	越智 亮	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

物理療法とは、温熱・寒冷、電気、水、光線、力学的負荷などの物理的エネルギーを、主に運動器疾患の治療に適用するもので、リハビリテーション医療のなかでは運動療法とともに理学療法の両輪をなすものである。授業目標は、各種物理療法機器の特性と、物理的エネルギーが生体に及ぼす影響の修得である。受講者は、臨床で用いられる物理療法機器の適応と禁忌を理解した上で、病態に応じた物理療法機器を選択でき、さらに各種物理療法機器の取り扱いについて習得できる。

【履修注意】

各種物理的エネルギーが生体に与える影響と生理学的効果の機序を理解するためには、解剖学と生理学の基礎知識が必須であるため、十分な復習をしておくこと。教科書を使用し、板書で講義を行うため、毎回、教科書とノートが必要となる。

【評価方法】

出席状況(遅刻・欠席減点あり)、小テスト、質問に対する返答回数(加点あり)、試験成績を考慮する。

【試験について】

講義毎に復習を兼ねた10分程度の小テストを行う。期末には本試験(筆記)を行う。

再試験対象者の条件：本試験60点未満の者が対象となる。

【予習・復習】

履修注意で述べた通り、解剖学、生理学の復習をしておくこと。各講義内容と教科書の内容をノートにまとめ、復習を必ず行うこと。講義の冒頭で小テストを実施し、自宅学習を行ったかどうか確認する。

【教科書】

書籍名：理学療法学テキストⅩ 物理療法 著者：(監)千住秀明、(編)沖田実 出版社：神陵文庫

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	オリエンテーション・総論	概要説明、物理療法総論
2	炎症	炎症、組織修復
3	疼痛基礎論(坂野)	疼痛、メカニズム、急性痛、慢性痛、CRPS
4	疼痛リハビリテーション(坂野)	急性痛、物理療法、慢性痛、認知行動療法
5	温熱療法(1)	温熱療法総論
6	関節拘縮	病態、原因、分類、進行要因、ROM制限と物理療法
7	温熱療法(2)	ホットパック、パラフィン浴
8	温熱療法(3)	超音波療法、極超短波
9	寒冷療法	寒冷療法総論、各種冷却法
10	光線療法	光線療法総論、赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法
11	水治療法	水治療法総論、全身浴、部分浴
12	力学的機器	牽引療法、持続的他動運動訓練、徒手のマッサージ
13	電気療法(1)	電気刺激総論、末梢神経損傷と脱神経筋について
14	電気療法(2)	低周波療法、TENS、干渉波療法、クロナキシー
15	まとめ	物理療法全体のまとめ、物理療法機器体験
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ